

16分参加

第五十三回「本郷ふじやま古民家歴史部会」歴史探訪「東海道の歴史を語る追加」

「Ⅶ」11月4日(木) 東海道「平塚宿」

山登り(集合; JR東海道線「平塚」駅改札口9時50分厳守同時出発)
行程; 平塚駅→馬入川渡船場跡→馬入川遭難者供養塔・真福寺内→丁髷塚→馬入一里塚→平塚八幡神社→晴雲寺→江戸城井戸杵→江戸見附跡→脇本陣跡→高札場跡→本陣旧跡→西組問屋場跡→要法寺→平塚の塚→お初の墓→春日神社→上方見附→教善寺→薬師院→東組問屋場跡→お菊塚→昼食場所。

昼食場所; 駅ビルラスカ5階「いっさい」釜炊ごはん 1500円/程。

着12:04 12:50 集合

TEL; 0463-23-2895。

平塚宿「伝馬制度が設定、1601(慶長6)、最初に誕生・日本橋から7番目・15里30丁(62km)」

最初に出来た理由は、平塚の隣村、中原にある中原御殿(家康、鷹狩、駿府往来時専属宿泊所、明暦3=1657引払)・中原代官屋敷への通信伝達中継基地として、東海道の最も近い平塚を必要としたと考えられる。

問屋2・本陣1・脇本陣1・旅籠54・大磯宿との間27町(約2943m) 東海道宿駅2番目の長さ(1.1km)・西から柳町・西仲町・東仲町・24軒町・18軒町の5町で構成。

東海道宿駅(天保14年、1843) 平塚宿石高692.809)

家数443・人口2114(男1106・女1008)・旅籠家54(大2中29小23)・本陣1 脇本陣1

次の宿までの駄賃・人足賃銭(文) 正徳元年(1711) 荷物34・軽尻23・人足18

天保15年(1844) 荷物51・軽尻35・人足27

1・馬入川渡船場跡(源流山梨県山中湖・全長120km・県下、最長・相模川下流は馬入川と言う)

江戸期幕府の定めにより橋は架けられず、専ら渡船によって往来した(当時の川幅100m)。渡船賃(1690・元禄3・川高札); 人間1人=10文、荷物1駄・駄賃(馬に付けた荷物36又は40貫目迄)=22文、乗掛荷(人が乗った馬に付ける荷物20貫目迄)=16文。1860(万延元・幕末) 元禄3年の2倍。

江戸末期には、渡船等6艘を常備し、1艘に水夫3人ずつ配置した。

参考; 金1両(明治以降俗に円と同義)=4分=16朱(銀60匁・文)・1両現通貨8万円の場合=4分(1分2万)=16朱(1朱5千円)=銀60匁(1匁約1333円)。

2・馬入川遭難者供養塔(真福寺内)

昔、馬入川は水量が多く、街道筋の一大難所とされていた。徒歩のためあるいは洪水のため遭難落命した人々が多い。

- 3・丁髷塚（チョンマゲ・蓮光寺墓地隅・喧嘩の下手人16人から切り落とした丁髷が埋まっていると言う）

江戸時代相模国府の端午祭に、一之宮寒川神社の奥丁（ヨウテイ）と平塚八幡宮の馬入村奥丁が大喧嘩をした。その下手人に対し代官（当地支配、葦山江川太郎左右衛門担庵・江川大明神）は丁髷を切り落とし斬首にかえた。

- 4・馬入一里塚（榎木町・慶長9年，1604江戸幕府は東海道を大改修し日本橋を起点として、一里塚を築いていた。

- 5・平塚八幡宮「新宿、馬入村、八幡村の鎮守（相模国八幡庄総鎮守）・祭神，八幡大神（応神天皇）、神功皇后（応神天皇母神）、武内宿弥の三柱・大銀杏・相模5の宮，芸能国府際（コノマチ・5月5日・県民俗，座問答）参加・神紋鶴丸・例祭8月15日・浜降祭、神幸祭8月15日・歩射神事7月7日」

伝承では仁徳天皇の頃（4世紀）に、応神天皇（仁徳父神）を祀ったと言う。相模国八幡宮の中心、相模五ノ宮として国府祭に参加している。頼朝が政子安産祈願で神馬奉納など、鎌倉幕府の尊拝を得た。本殿前の鳥居1765（明和2）建立、1860（万延元）再建（青銅製）・鳥居の左右に氏子をはじめ、市域中心に、高座郡・愛甲郡など広い範囲で、計358名の姓名・村名が、狛犬は（青銅製）の左右台座に「神徳」「敬仰」の刻文字有る。

- 6・晴雲寺（浄土宗東京芝増上寺末・松風山光照院・本尊，阿弥陀如来・山門中原御殿門，伝徳穀家康ひばり門）

天正年間（1573～92）の創建。昭和20年戦災焼失，同35年櫓，桧主材として本堂，庫裡復興。

- 7・江戸城の井戸枿（市民センター中庭）

昭和32年，市制施行25周年に，東京都から江戸城の石垣とともにもらい受けた。

- 8・江戸見附跡（宗善公民館入口に史跡碑・平塚新宿・長さ約3.6m，幅約1.5m，高さ約1.6mの石垣台）

近年発見された写真資料を基にして復元したもの、長さ3.6m・幅約1.5m・高さ約1.6mの石垣を台形状に積み頂部を土盛りしてある。

- 9・脇本陣跡（高座山がよく見える）

本陣の補助的役割・平塚博物館に「山本脇本陣絵図」が残っている。一般庶民の利用も許されていた。

- 10・高札場跡「長さ2間・横1間・高さ1丈1尺（1丈＝10尺＝約3m）」

- 11・東組問屋場跡（慶安5年，1652八幡新宿に増設された）

- 12・本陣旧跡（平塚博物館に「加藤本陣絵図」残っている）

代々加藤七郎兵衛を名乗り、屋敷；敷地600坪・110坪、総檜、平屋造り・乗馬のまま出入り出来る檜造りの門があり、此の門は、現在伊勢原市西富岡の小沢氏の表門として残っている（明治中頃移転）。

- 13・西組問屋場跡

平塚には、問屋場が二ヶ所あり、西仲町；西組問屋場・二十四軒町；東組問屋場、十日毎に交替で業務。

14・要法寺（日蓮宗・松雲山・北条時泰次男平塚左衛門尉泰知館跡、弘安5年、128

2日蓮療養のため身延山から本門寺へ向かう途中止宿、日蓮に帰依日蓮宗に改宗）

北条泰時の次男と伝える平塚左衛門尉泰知（ヤストモ）の館が此处にあり、弘安5年に療養のため身延山から池上本門寺に向かう日蓮が止宿（弘安5年9月16日・同年10月13日没・61歳・御会式）したと言う。その後、日蓮に傾倒した泰知は出家し、松雲山日慈と名乗り要法寺としたと言う。

15・平塚の塚（平塚地名由来）

桓武天皇（平氏）の孫、高見王の娘政子（碑は真砂子）が857（天安元）此处で亡くなった。そこで塚をつくったが、年月を経て、上が平らになり、政子は平家であったので、平塚と呼ばれたと言う（平らな塚説も）。現在の塚の前にある碑は1920（大正9）と1957（昭和32）に立てられたもの。

16・お初の墓（春日神社東側の墓地）

「加賀見山旧錦絵・カガミヤマコキョウニシキエ」と言う歌舞伎で活躍する「鏡山お初」のモデル「たつ」の墓と顕彰碑。高さ50cm程の墓石には「安室貞心女」昭和6年10月9日と刻まれ観音像が浮き彫りされている。

17・春日神社（旧名、黒部宮・現在地よりかなり南にあった、津波で社殿が流され現在地に移されたと言う）

平塚本陣の鎮守・祭神；天児屋根命（アメノコヤネミコト）・武甕槌神（タケミガヅチカミ）・経津主命（フツヌミコト）・比売神（ヒメカミ）の4柱。1191（建久2）頼朝が馬入川の橋供養の祈願をし、橋が出来た後、造った神社。オッパイを飲ませている狛犬、足で子供を抱いている狛犬・神社に鐘楼は珍しい、神仏混合時代の名残か。

18・上方見附・広重の絵・平塚宿の碑

19・教善寺（時宗・本尊、花水川河口から出現と伝う）

時宗開祖一遍知真住庵の地です。

20・薬師院（通称清水の寺・真言宗東寺派・本尊薬師如来・寺宝両界曼陀羅2軸、釈迦涅槃像）

宝暦年間に日誉法印が開山した真言宗の寺で、明治6年崇善館（ソウゼンカン）第2支校が当寺に置かれ、昔清水寺といった。

21・お菊塚（怪談、番町皿屋敷モデル・怪談「番町皿屋敷」登場、菊女の墓跡に昭和27年有志によって建碑された。センダンの木・墓標は紅谷町公園一角）

菊女は平塚宿の役人真壁源右衛門の娘で、江戸の旗本青山主膳に奉公したが、元文5年（1740）に家宝の皿を紛失したと手打ちにされたと言う。戦前は此の地は墓地で菊女の墓も此处にあったが戦争で焼け、戦後の区画整理で公園となりお菊の墓が立てられた。菊女の墓は現在立野町の晴雲寺（上記6参照）に移されている。

帰りに平塚宿 13:06 一太郎 13:23

